

calum 「さくらんぼ」の語源について

久保博
東京外国語大学非常勤講師

2020年 日本ロマンス語学会第 58 回大会

- ロマンズ語学において、地域や方言間で変化する物事の名称やその語源には、19世紀以来継続して一定の関心が払われてきた。
- 本研究では、主にイタリア・ロンバルディア州で使われている *calum* 「サクランボ」について扱う。

ロマンス語に「サクランボの名称」

- ロンバルディア州 Viadana 周辺の言語変種では、*calum* ['kalum]（「サクランボ」）という語彙が用いられている。
- この語彙の語源について、先行研究では意味変化に焦点が当てられ、ラテン語の CALAMU(M) から派生したという仮説が立てられている。

「小枝」「竿」「ペン」「接ぎ木」 > ‘ペンの形をした接ぎ木の枝’ > 「サクランボの一種（木）」 > 「その実（サクランボ）」 > 「サクランボ（一般）」

音変化

- 先行研究では、意味変化ばかりが扱われており「音変化」については一切触れられていない。
- 実際、*calum* では CALAMU(M) と比べて著しく語形が変化しているので、当該の変化が音変化の側面から妥当であるかどうか考察してみる必要性がある。

- 本研究では以下の様に変化が起こったと仮説を提案する。

CALAMU(M) > *calmo* > **calm* > [kalum]

- この仮説が妥当であるか以下に検証する。

以降の議論に必要な基礎的な知識。

- Viadana の言語変種について
- AIS におけるデータ (Band VII, Karte 1282, *la ciliegia*)
- REW におけるデータ (CALUMU(M) の変化形)

Viadana の言語変種

Viadana はロンバルディア州マントヴァ県のコムーネであり、ポー川に隣接し、川向うにはエミリア・ロマーニャ州が広がっている。(スライド10を参照のこと)

言語変種は、Loporcaro (2009), Foresti (1985) Pellegrini (1977) などの研究者によるとエミリア方言に属するとされている。

AIS におけるデータ (Band VII, Karte 1282, la ciliegia)

254	Martinengo (BG)	'ka:lɛm
258	Lumezzane (BS)	'ka:lɛm
267	Dello (BS)	'ka:lɛm
278	Solferino (MN)	l 'ka:lɛm (rot, süsser als "la seraza"
286	Bozzolo (MN)	el 'ka:lɛm, -lum (weiss, rosa, rot oder schwarz)
288	Mantova (MN)	'ka:lɛm (rot)

- AIS では言語地図の左手のコラムに「サクランボ」の亜種として calum とそれに類似した語形が報告されている。
(主にロンバルディア州東部に集中)
- 地点 278 と 286 では植物の特徴が示されている。
- スライド 10 を参照のこと。

REW におけるデータ (calumu(m) の変化形)

ital.	calmo	「接ぎ木」
ital.	calamo	「ペン先」
calabr	calamu	「稲などの切り株」
siciliano	kalamu	abgekämmter Kokon
log.	kalamu	「束、房」
fr.	chaume	(複数で) 「(穀物を借り入れた後の) 切り株」
sp. port.	cálamu	「(バグパイプの) 菅」

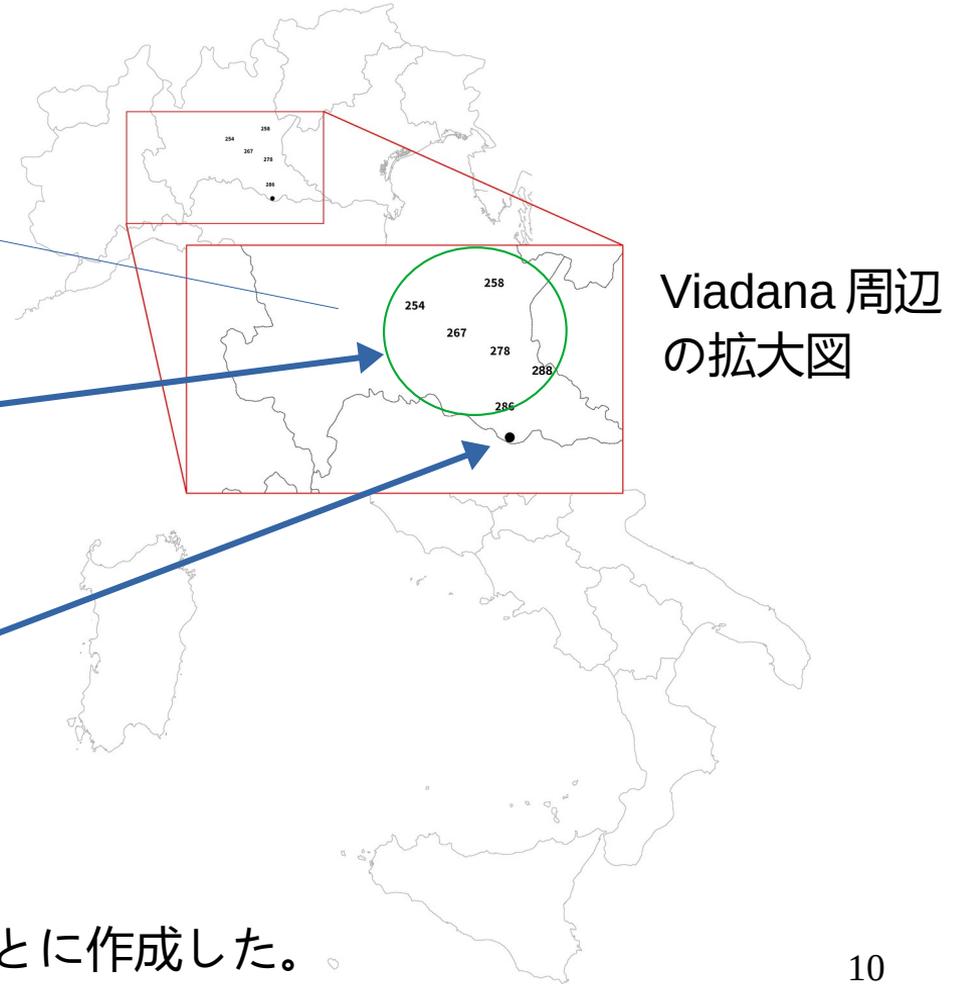
- CALAMU(M) から派生した語は、ロマンス語において様々な意味で使われている。
- しかし、「サクランボ」という意味も *calum* という語形も記録されていない。

ロンバルディア州

番号は、AIS 上で calum に
類似する語彙が報告されて
いる地点 (緑の円)

Viadana の位置
(黒丸)

白地図は、Pellegrini (1977) をもとに作成した。



語末第三音節に強勢がある語の 中間母音の脱落

Viadana方言

Rohlf's (1966)によると、北イタリア方言の語末第三音節に強勢がある語の中間母音の変化は、言語変種ごとに異なるという。

エミリア方言 母音が消失する。

gumde 「肘」 < lat. CUBĪTU(M);

sémśa 「ナンキンムシ」 < lat. CIMĪCE(M).

ロンバルディア方言 母音が保持される。

gumbet < lat. CUBĪTU(M);

simes < lat. CIMĪCE(M).

語末第三音節に強勢がある語の 中間母音の脱落

AIS のデータを一瞥すると、
ポー川北岸に位置する Viadana
周辺の言語変種はロルフスが
ロンバルディア方言として挙
げている例に近いように思わ
れる。

(丸は Viadana の位置)



AIS, Karte 473, la cimice, le cimici

ポー川本流

語末第三音節に強勢がある語の 中間母音の脱落

Lausberg (1971), Rohlfs (1966):

ロンバルディア方言でも、確実に北イタリア方言の語末第三音節に強勢がある語の中間母音が落ちているとされている一群の語彙がある。

vert (it. verde) < lat. VIRĪDE(M);

cald < lat. volg. CĀLDU(M), per il class. CALĪDU(M);

solt < SOLĪDU(M)),

fr̄et < lat. FRIGĪDU(M);

di < lat. volg. *DĪĪTU(M), per il class. DIGĪTU(M)

- CALAMU(M) も同様の变化を被ったと推測することができる。

語末第三音節に強勢がある語の 中間母音の脱落

さらに、伊語と仏語では実際に中間母音が脱落している語形が伝わっている。

伊語 *calmo* < CALAMU(M)

仏語 *chaume* (< *chaulme*) < CALAMU(M) (TLFi も参照のこと。)

語末母音脱落と母音挿入

- AIS p286 *inveren* < **invern* < *hiběrn(u)m* (tempus)
-
- この変化のパターンは Viadana の言語変種も属しているイタリアのガロ・ロマンス語に広くみられる。
- 従って *calmo* > **calm* > [kalum] の変化も当該変種で起こったと推定できる。

結論

- 従来の研究で *calum* の語源について主に意味変化にのみ焦点が当てられていたが、本研究では音変化による語形を焦点として扱う。
- 音変化により *CALAMU(M) > calum* と著しく語形が変化してはいるが、*CALAMU(M) > calmo > *calm > [kalum]* と変化したと仮説を立てることで、当該語彙が Viadana の言語変種で多くの語彙に起こった規則がおおむね規則的に適用された結果生じた語形であると、音変化の側面からも十分に主張することができる。

参考文献

- AIS = Karl Jaberg, Jakob Jud (1928-1940). Sprach- und Sachatlas Italiens und Südschweiz. Zofinger: Ringer & Co.
- Badiali, A. (1983). Etimologie mantovane. Dizionario storico-comparato dei più tipici vocaboli nostrani. Sofir, Mantova.
- Foresti, (1988). Aree linguistiche V. Emilia Romagna. LRL 4: 569-593.
- Lausberg, Heinrich (1971). Linguistica romanza. Vol. 1. Milano, Feltrinelli.
- Loporcaro, Michele (2009). Profilo linguistico dei dialetti italiani. Bari: Laterza.
- Pellegrini, Giovan Battista (1977). Carta dei dialetti d'Italia. PDI 0. Pisa: Pacini.
- REW = Wilhelm Meyer-Lubke (1935). Romanisches etymologisches Wörterbuch. Heidelberg, C. Winter
- Rohlf, Gerhard (1966). Grammatica storica della lingua italiana e dei suoi dialetti. Vol. 1. Torino, Einaud.
- Vignoli, Mariano. (2019). Ceresara, terra di ciliegie e ciliegie. In: Marino Vignoli, La Ciliegia di Ceresara De.Co. Publi Paolini, Mantova.